YAYASAN PLAN INTERNATIONAL INDONESIA

Affiliated with: PLAN INTERNATIONAL

ASEAN FOUNDATION

With support from Google.org

未来への架け橋：アセアンのユースの雇用
ブライティーズの心に残るエピソード集

BRIDGES TO THE FUTURE : ASEAN YOUTH EMPLOYMENT
A COLLECTION OF BRIGHTEES' INSPIRATIONAL STORIES

序章

人生とは、ゴールのない長いマラソンです。それには、人生で増え続ける選択肢から取捨選択しながら、走り続ける強い決意が必要なのです。

ヤヤサン・プラン・インターナショナル・インドネシア（プラン・インドネシア）は、あなたの人生の旅路の一部となれたことを誇りに思います。

私たちは、2020年より、未来への架け橋(BTF) というASEANのユース雇用プログラムを実施しています。約5,000人のユースと一緒に、職業スキル（ソフトスキル、ハードスキル）の開発、メンタリング、キャリアコーチング、心理社会的支援、新しい仕事の機会を得るためのジョブフェアへの参加、などを行っています。

多くの方が、「ユース・チャンピオン」として参加し、他者を助けながら自身も成長してきました。また、他にも、ソフトスキル研修のバディやクラス代表、聴覚障害のある参加者のために理解を促す説明を打つタイピスト、フォーカルポイントメンターとしてメンタリング活動を支援する方など、さまざまな方が手を貸してくださいました。

プラン・インドネシアは、これまでのあなたの旅路を高く評価しています。COVID-19のパンデミックによる不確実な状況の中で苦闘しながらも、あなたは決意を強く、より良い人間へと成長しようとしました。

インドネシアのプランは、皆さんがBTFで培った経験、能力、人脈の全てが、より良い未来への架け橋となることを願っています。また、皆さんがこのユース・コミュニティで育んだ精神によって自信を持ち、また将来のリーダーになる助けとなることを期待しています。

BTFとの旅はここで終わりとなりますが、プラン・インドネシアは、皆さんが未来への追求を止めることのないよう望んでいます。その名の通り、「ブライティーズ」には、自身の人生や所属するコミュニティを明るく照らすような存在であってほしいと願っています。

この旅にお付き合いいただき、ありがとうございました。ぜひ、本書「未来への架け橋の宝物」お楽しみいただき、また新たな旅でお会いしましょう。

ジャカルタ、2022年９月２日

Dini Widiastuti
プラン・インドネシア事務局長

詩人Kahlil　Gibranはかつて、仕事とは、愛を目に見える形に表現することである、と言いました。この言葉は、まさにBTFのプロジェクトチームおよびユース・チャンピオンが、これまでの汗と涙を仕事の喜びとしながら、見事にインドネシアのユースをいつでも働ける状態にしたことを表現しているようです。インドネシアの雇用に素晴らしい影響を与えたBTFチームの皆さん、パートナーの皆さん、そしてBTFユース・チャンピオンの皆さん、おめでとうございます。また、プロフェッショナルな世界で素晴らしい能力を見せてくれたブライティーズの今後の成功を願っています！最後に、BTFを支援してくださったGoogle.orgの皆様に感謝いたします。

Benedictus Wahyu Sadewo
インドネシアのプラン ユースの雇用・起業プログラム・マネージャー

現在、これまで以上にBTFのようなプログラムが重要となっています。過去3年間のCOVID-19の流行の余波がまだ残る世界において、BTFは、インドネシアのユースのニーズに応えるよう絶えず努めてきました。変動的な環境の中でユースに焦点を当て、彼らが関連スキルを学んだり、横断的な技能や能力を身に着ける機会を提供してきました。BTFが開発を試みたスキルや能力は、COVIDから復興するために、またユースが変化が激しく不安定な労働市場において適応するにあたり、最も重要な要素となります。BTFはCOVID-19のパンデミックへ直接対応してきました。また、Google.orgのように、COVIDへの唯一の長期的に有効な手段が、包括的な経済開発アプローチとしてユースを最前線に置くことだと考えている支援者と協力する機会となりました。

BTFは、ソフトスキルの研修、需要のある技術・職業研修、就業支援、メンターとのつながり、継続的な職業能力開発を組み合わせたプログラムで、特にパンデミックの影響を不当に受けたユースを対象としました。BTFが、次世代に安定した経済的豊かさや成功への道筋となり、また強固で持続可能かつ今後も再現されうるプログラムであることを願っています。

ユースとしてBTFに参加し、自らの手で人生を紡ぎ、また自身、家族、そしてコミュニティのためにより良い未来を作ろうと励む、素晴らしい彼らの数多くのエピソードの中から、いくつかを紹介できることは、非常にわくわくします。私は、プランと共に取り組む彼らの意思を光栄に思うとともに、彼らの知性、意欲、経験に敬意を抱いています。私は心から彼らの功績を祝福し、今後も多くのブライティーズにスポットが当たる機会があることを楽しみにしています！o

Colton Hubbard
ユース＆経済的エンパワーメント テクニカルアドバイザー
プラン・インターナショナル・USA

ユースは、経済、社会文化、政治、そして人権の実現という観点から、世界各国の発展において、主たる役割を担っています。

Google.orgの支援のもと、ASEAN財団はインドネシアのプランと密接に協力しあって、BTF、いわゆるASEANユースの雇用（AYE）プログラムがユースの自己開発を奨励し続ける場所となることを目指しています。

更に、BTFすなわちAYEプログラムは、様々な活動を通じて、ASEAN、特にインドネシアとベトナムの何千人ものユースに、COVID-19パンデミック後のあらゆる動きを伴う競争的で高度な世界に向けた準備を支援しました。

インドネシアでは、プラン・インドネシアが、ユースを集めて、職業技能開発（ソフトスキル、ハードスキル）、メンタリング、キャリアコーチング、心理社会的サポート、新しい仕事に就くためのジョブフェアといった数々の活動を実施しました。

2020年から2年間続いたBTFプログラムは終了しましたが、その効果はここで終わるものではないと考えています。プログラム参加者だけでなく、非営利団体、政府機関、民間パートナーなど、プログラムに参加した様々な方が、その後にわたって良い影響を受けました。一握りのユースは雇用する側とつながることができ、また逆に、さまざまな雇用する側は素晴らしい才能を見出す機会となりました。貴重なユースの参加に、そしてこの2年間のプランの努力に大いに感謝を述べたいと思います。

本書「未来への架け橋の宝物」によって、多くのユースが成長のための刺激を受け、また各ステークホルダーがユースのキャリア機会や将来のための包括的な研修の機会やアクセスを強化するようになるよう願っています。

ジャカルタ、2022年9月22日

Dr. Yang Mee Eng
アセアン財団事務局長

Googleの慈善事業部門であるGoogle.orgは、人道的な問題に対して革新的な活動を行う非営利団体やその他団体を支援しています。Google.orgは、世界をより良くするためのアイデアを追求したり、実証したり、また構築する組織を支援するために設立され、今日も反復的に慈善活動に取り組んでいます。Google.orgは、それぞれ、ローカルレベル、地域レベル、国際レベルの問題に対して測定可能な形での影響を与えられる活動を支援しています。また、Google社員一丸となり、より良い世界をより早く作るという一つの目標に向かっています。Google.orgは、世界最大の課題に対して技術を駆使して革新的な活動に取り組む団体を探し出しては、支援しています。

プラン・インターナショナルとASEAN財団がこのほど発表した報告書「Mind the Gap: Mapping Youth Skills for the Future in ASEAN」によると、東南アジアのユースが、障害の有無に関わらず、有意義で実りの多い人生を送るために必要な、安定かつ満足のできる雇用を確保することに大きな課題を抱えていることがわかりました。

この課題に取り組み、またユースの不完全雇用のギャップを埋めるようと挑むプラン・インターナショナルを支援するため、私たちはASEAN財団とともに、200万ドルのGoogle.org助成金を提供しました。このBTFでは、プラン・インターナショナルとASEAN財団は、インドネシアとベトナムの2万人超のユース（障害を持つユースを含む）に、重要なソフトスキルや技術的スキルの研修、コーチングを提供することができました。また、このプログラムを通じて、これまでに1,500人超のユースが雇用を見つけることができました。このようなプログラムによって、現地の受益者の生活を変える効果を発揮しているのを見ると、いつも鼓舞されます。視覚障害を持ちながらも、このプログラムを通じて特別支援教師としての職を得たRavindraのような受益者や、必要な包括的支援や訓練を受けることができた多くの人びとのエピソードは、プランとASEAN財団による活動がいかに重要であるかを示しています。私たちは、BTFプログラムによって、他の団体も刺激を受け、ユースが尊厳と充実感をもって人生を送ることができるようなプログラムを共に支援できることを願っています。

Marija Ralic
Google.org アジア太平洋地域長

Assalamu Alaikum Warahmatullahi Wabarakatuh（あなたに平和と神の慈悲と祝福がありますように）。一般に知られているように、インドネシアは先進国になる兆しを見せている国の一つです。人口ボーナスが顕著であり、2030年までにはピークに達すると予想されています。中国、韓国、日本など、現在の先進国の中にもかつて人口ボーナスを持つ国がありました。今日まで、総生産人口、特にZ世代とミレニアル世代のユースは、インドネシアの総人口の53%に上ります。Z世代やミレニアル世代に、生活のあらゆる場面で競争力のあるスキルや能力を身につけさせることで、インドネシアが先進国となる兆しになるでしょう。

労働省、特に職業訓練・生産性開発総局は、労働省の9つの改善（戦略的施策）を策定し、そのうちの3つは、職業訓練センターの変革、雇用の関連付けやマッチング、雇用環境のデジタル化開発です。特にZ世代やミレニアル世代が、職業・生産効率訓練センター（BPVP）や業務訓練センター（BLK）での職業訓練を通じて能力開発するという場面においては、従来の方法をオンラインやブレンド方式に変更したり、時代に即した訓練に変更したりするなど、訓練の再設計が行っています。この再設計は、雇用の関連付けとマッチングを実行しながら、雇用環境をデジタルエコシステムに統合することを目的としています。

インドネシアのプランは、能力・研修プログラム標準化局のもと、BTFプログラムを通じて、労働省の9つの改善の推進に貢献しています。また、BTFはデジタル研修教材（eラーニング）開発で新しい風を吹かせています。2019年からインドネシアのプランは、観光、ICT、語学など、デジタル研修教材の開発支援に積極的に取り組んでいます。全国各地のBPVPやBLKの研修参加者は、SIAPKERJAのデジタルプラットフォーム（eラーニング）を通じて、教材にアクセスしたり、活用してきました。これは、ユースが、デジタル技術を通じて、ビジネスや産業に沿った専門的な能力を身につけることができるための改善への取り組みと一致しています。

インドネシアを先進国にするという目標を実現するためには、まず、現在の状況に関連する確かな能力をユースに身につけさせることから始めなければなりませんが、その取り組みの1つが職業訓練です。したがって、このように、能力・研修プログラム標準化局とプラン・インドネシアが協力してデジタル研修教材を作成することは、インドネシアが先進国になるにあたり、重要な資産となり得るでしょう。この活動の勢いが継続し、さらに発展することを期待しています。

インドネシアのプランにより、ユースの成功のストーリーを綴った「未来への架け橋の宝物」が出版されたことを祝福いたします。本書によって、インドネシアを豊かな国にするために努める私たちのような人びとが鼓舞され、奮起することを願っています。

Muchtar Azis, S.T., M.T.
能力・研修プログラム標準化局長

目次

09 未来への架け橋(BTF)について

10 プログラム実績

11 Abid
BTFが変えた、ろう者の友だちへの理解

13 Ayu
仕事上で高く評価されるソフトスキル

15 Sean
女性のリーダーになる？やってみよう！

17 Rira
障害者のための自己実現の機会

19 Maya
女性であること、競争に恐れないこと

21 Ibrohim
ビジネス改善に貢献したコピーライティングとマーケティングのスキル

23 Mughniy
追い求めたパブリックスピーキング（人前で話をするスキル）を学ぶ機会

25 Satria
思慮分別をもち、生きることの価値

27 Anik
仕事で、更に自信を持ち、率先して行動する

29 Danu
障害により日常生活や社会生活において受ける制限の中で、社会で競争できるようスキルを身につける

未来への架け橋(BTF)について

2010年以来、インドネシアのプランは、ユースのための雇用および起業プログラムを実施している。これらのプログラムは、ユース、特に女性の雇用や起業の機会へのアクセスを向上させることを目的としている。

そのひとつが、ASEANユースの雇用プログラム、すなわちBTFである。2020年以降、BTFはインドネシアのプランとASEAN財団により共同実施され、Googleの慈善事業部門であるGoogle.orgの支援を受けている。BTFプログラムの目的は、参加者であるジャボデタベック地域のユース（18～29歳）の就労能力を向上させることである。参加者は、ブライティーズと呼ばれている。

インドネシアのプランは、BTFを通じて、ユース、特に女性や障害者、彼らが目指す仕事への就職に近づけるように取り組んでいる。COVID-19パンデミックに起因する経済的な影響により、この取り組みの意義は高まっている。多くのユースは、解雇されたり、求人情報へのアクセスが困難になったり等、影響を受けている。

したがって、BTFは包摂的かつ包括的な方法で実施されている。ブライティーズは、インドネシア国家職業能力検定（SKKNI）と業界のニーズに沿った一連のソフトスキルおよび技術スキル研修を受ける。更に、2022年までの間に2度開催されたオンラインジョブフェアにおいて、キャリアコーチング、心理社会的支援、キャリアマッチングも受ける。これらの活動はすべて、パートナー企業、研修機関、政府機関、民間企業とともに、オンラインとオフラインで実施される。

また、BTFでは、ユースのエンパワーメント活動の一環として、ブライティーズは定期的にキャリア・メンターを利用できる。この活動には、Googleのボランティアも積極的に参加し、彼らはメンターになって、約50名の参加者を指導している。その後、研修を終えたブライティーズは、リンク＆マッチプログラムを通じて、雇用への橋渡しされる。

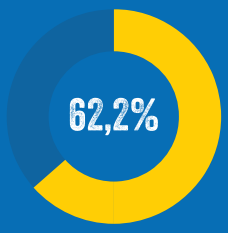
プログラムの成果

*記載のデータおよび数値は2022年8月現在のものであり、2022年9月までに変更や調整がなされる可能性がある。

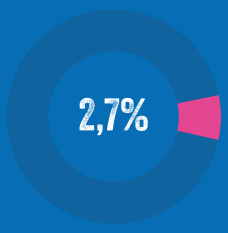
BTFプログラムの参加者数

6.094人

女性



障害者



参加者のうち、女性は62.2%、
また障害者は2.7%

1.670 人が技術研修修了

4.342 人がソフトスキル研修修了

1.549 人が内定・就職

BTFプログラム を通じて、1,670人のユースが技術トレーニングを終了し、4,342人のユースがソフトスキル研修を修了した。また、このプログラムにより、1,549人のユースが仕事に就いた。

プログラムの間、一部のブライティーズはユース・チャンピオンとなり、司会者やウェビナー操作、タイピスト等となりBTFチームを助け、貢献した。彼らユースがCOVID-19パンデミック後の仕事に、平等で包摂的にアクセスできるよう、是非支援しよう！

BTFが変えた、ろう者の友だちへの理解

Abid (25歳)
BTF 第5期 参加者

オンラインショップのオーナーにとって、セールスの知識は売上を上げるためにとても有用である。

東ジャカルタのユース男性Abidは、インドネシアのプランが主催するBTFを通じて、幸運にもその知識を得ることができた。

Abidは2021年11月上旬、自宅近くにあった看板を見てBTFを知った。彼はプログラムのビジョンとミッションに興味を持ち、応募。そして、第5期の選考に合格した。

Abidは、COVID-19パンデミックの影響を受けた一人である。経営学部を卒業したAbidは、職を探しながら自身のオンラインビジネスを持つことにした。数ヶ月に及ぶBTFプログラムの間、彼は多くの貴重な経験をし、また、メンターから得た知識を日常生活で生かしたいと考えていた。

Abidは、各分野の専門知識を持つメンターたちの指導のもと、さまざまな研修に参加した。彼は、マーケティングとICT（情報通信技術）教材のいくつかは、自身の現在の活動に適していると感じている。Abid曰く、「マーケティングの研修やICT教材は興味深く、魅力的でした。私はオンラインショップを運営しており、これらは販売に適用できます。また、グラフィックデザインの教材もあり、オンラインショップや販売商品をより魅力的に見せる方法を学べました。」

Abidは、ブライティーズ　であることに誇りを持っている。このプログラムの修了時点で、彼は日常生活、特にビジネスに適用できる膨大な知識を手にしていた。「研修を通じて、自分の取り組む分野で(知識を)直接活用することができ、また新しいことを学び、新しい友人を作れたり、良い影響がありました」とAbidは語る。

また、BTFでの研修のおかげで自信もついたという。

BTFでは、多くの知識を得ることができ、またやりたいことがたくさんできました。

-Abid

「研修を通じて、自分の取り組む分野で(知識を)直接活用することができ、また新しいことを学び、新しい友人を作れたり、良い影響がありました。」

-Abid

「手話の研修で、ろう者の友人たちは聞こえるということを知りました。彼らはろう者と呼ばれているのは習慣的なものなのです」と語る。

Abidは、BTFで絶大な効果を受け、またそこで得た前向きな心持ちを友人たちにも伝えたいと考えている。Abidは彼の友人たちもまた学ぶことを熱望し、そして学ぶこと止めないでほしいと願っている。

「BTFは包摂的な環境づくりをしばしば進めています。私は昨日、手話の研修に参加しました。私たちが住む今の世界はまだ抱摂的ではないので、このような研修が今後更に行われることを願っています。」とAbidは語る。

仕事上で高く評価されるソフトスキル

Ayu (25歳)
BTF 第4期　参加者

農業生態技術学を卒業したAyuは、仕事の世界で想定していなかった「驚くべき」ことに遭遇した。タンゲラン出身のユース女性である彼女は、いくつもの仕事における不採用に直面し、自分の心が不安定になるとは思ってもみなかった。また、ソフトスキルやメタスキルが、技術やハードスキルと同じくらい重要であることにも、これまで気づかなかった。

幸運にも、AyuはBTFの研修に参加した。彼女がBTFを知ったのは、就職活動をしているときだった。彼女は、自身には技術的なスキルがあると思い就職を目指したが、メンタルヘルスマネジメントのようなメタスキルやテクニックがないことにその時は気づいていなかった。

「自分にはスキルがあると思い込んで、就職活動を行います。しかし、不採用が続くと、もちろん落ち込みます。そのため、気持ちを絶やさずに入れるように、同じ（キャリアの）ステージにいるコミュニティを探していたんです。」と、Ayuは言う。

徐々に、Ayuは同僚とのコミュニケーションスキルやメンタルヘルスマネジメントなど、さまざまなソフトスキルを身に付けていった。Ayuにとっては、メンタルヘルスの知識は非常に重要であり、BTFと他のプログラムとの差別化のポイントになっている。

「例えば、燃え尽き症候群とその克服法を学びました。ハードスキルについては、重要であることはもちろんのこと、（仕事への応用）方法も想像できるようになりました。また、BTFによって、メンタルヘルスや社会人としての適応プロセスの重要性を学びました」と、彼女は話す。

また、Ayuは他のブライティーズに会うことで自身との違いに気付くことができた。彼女は、BTFでは、友達を作るだけでなく、人びとのさまざまな背景を理解することができた、という。人間関係も良好になり、対人関係能力も向上した。

Ayuは、BTFを修了した後、自分の知識を蓄え、またその知識を周りに広めたいと考えている。特に、感情をコントロールする技術や履歴書の書き方など、求職者に役立つ知識を伝えたいと、話した。

> 考えすぎて奥底に埋もれてしまうよりも、知識を無限に増やしていきたい。
>
> -Ayu

女性のリーダーになる？

やってみよう！

Sean (23歳)
BTF 第3期 参加者

NGOで働きたいという思いから、SeanはBTFのリーダーシッププログラムに参加することにした。また、周りからSeanと呼ばれる彼女は、組織を率いる上でとても頼りになる存在で、ブライティーとしての7ヶ月間でその知識はどんどん増えていった。

Seanは、組織に対する熱意こそが、組織のリーダーになる動機だと言う。しかし、彼女のその望みは、組織におけるジェンダーの壁により妨げられている。

「研修に参加し、リーダーシップについて学びました。また、友人も作ることができました。私はまず組織の一部でありたいので、リーダーになるにはどうしたらいいかを深く掘り下げて考えました」と、彼女は語る。

Seanにとって、BTFは非常に有益である。彼女は現在、会計学を学んでおり、BTFの教材は実践的で、彼女の将来のためになる。

「BTFに7カ月間参加し、ブライティーになったことで、自信や周囲への配慮が高まりました。また、リーダーになれました」と、彼女は言う。

Seanは、社会的な事柄に取り組むのが好きなことから、将来は非政府組織でキャリアを積みたいという。

「NGOや ジェンダー平等に興味があります。NGOの背景を持つ組織や会社に入りたいと思っています。なぜかわからないけど、NGOに参加するとワクワクするんです。辺境、遠隔地、後発開発途上地域の人々に手を差し伸べながら、人びとと交流したり、子どもの福祉や教育について取り組むことが好きです」と彼女は語る。

また、Seanは、多くのイベントや大会、更にチームワークが求められるものに参加することに自信を持てるようになった。

「現在、私はある大会に参加しています。BTFのおかげで、チームメンバー全員が自信を持っています。全力で取り組み、助け合いながら、強固なチームを作っています」と、彼女は説明した。

「他の人が変えられないものを変えたいです」と、彼女は続けた。

BTF参加後、今ではSeanはいくつかの組織に参加し、彼女は多くの研修において信頼できるリーダーとなっている。

「今は、講師から信頼を頂き、3つのクラスを担当しています。また、3つのコミュニティにも参加し、ありがたいことに中核メンバーとして活動しています。BTFによって、私の視野は広がり、自身の考えと他者の考えの調和が必要であることわかりました。また、自分のスキルを発揮したり、向上させる方法も学びました」と、彼女は言う。

Seanいわく、女性として、男性と対等でいることが重要であるという。BTFで彼女は、女性が本来持っている性質を失わず実現できるジェンダー平等を学んだ。

「女性として、ジェンダー平等の影響を大いに感じるのは、私の周りの男友達が見下すような態度をとらないからです。彼らには、私が正しくジェンダー平等に関する情報を教えたことに感謝されています。また、女性は自分の能力でより多くのことを行えるようになったと感じています」とSeanは付け加えた。

彼女はリーダーとして、女性たちとともに、この先の仕事における世界をもっと楽しくしていきたいと思っている。

「仕事という感覚ではなく、友人や家族と一緒にいるような、家庭のような職場環境を作りたいです」と言い、周囲の人びとにも恩恵を与えることもまたSeanの今後の目標である。

さらに、Seanは、将来ユースが、現在露呈していない問題にもっと目を向けられるようになることを望んでいる。

「私は、全ての教育課程において、常に子どもたちが彼らの将来の道を選択できるような健全な環境に身を置けるように思い描いています。また、未来を生きる子どもたちがより良い人格形成していけるように願っています」

障害者のための自己実現の機会

Rira (31歳)
BTF 第3期 参加者

Riraには障害に対する偏見や間違った認識をなくすという決意があり、彼女はプラン・インドネシアのBTFプログラムを知り、心を躍らせた。

このプログラムは、ユース、特にろう者であるRiraのような聴覚障害者が雇用へアクセスできるようにすることを目的としている。

Riraがソーシャルメディアでプラン・インドネシアを知ったのは、2020年に前職を退職してしばらく経った頃だった。

彼女は、ろう者である自身が主に仕事において自信を高めるのにBTFがとても助けになったと感じていることを語った。

聴覚に障害があっても立ち向かうRiraは、職場のコニュニティで自身を成長させるための活動を模索した。

「特にろう者である私にとって、自信は仕事上のおいて重要な事柄だと思うので、私は今、自信をつけたいという意欲にかられています。毎日、以前の自分より良くなるようにと努力しています」と、彼女は語った。

彼女に言わせてみると、BTFは誰にとっても利用しやすいプログラムである。差別なく、誰もが自身の能力を発揮し、自己実現するために同様の機会を与えられているのである。

研修中、手話通訳を介して、Riraは資料を理解した。

「参加者としてだけでなく、スピーカーとして、障害者の声や多様性、また障害を持つ社会人としての経験などを伝えることで、学ぶ機会を与えていただきました」と、Riraは説明する。

彼女によるとBTF参加者には、人間として学び、共有する場が与えられているという。「このような場があるからこそ、私は不安と戦うことができます」と語る。

BTF参加前のRiraは、感情のコントロールが難しく、神経質になりやすく、考えすぎて疲れたりと、それは日常生活にも大きく支障をきたすほどであった、と言う。

その後、BTFの参加し、彼女の精神は安定し、心穏やかな状態となった。「心理社会的支援とメンタルヘルス・ワークショップを受けた後、私の認識は大きく変わりました。BTF、そしてBTFに関わるすべての人々は本当に素晴らしいです」と、Riraは言う。

更に、BTFでは、自身を大切にし、より自身の感受性を高める機会になったとRiraは感じた。彼女は、誰にでも強みと弱みがあると考える。すべては与えられた機会をいかに最大化するかどうかなのだ。

「自分の周りにも優しさを分け与えていきたい。自分自身から愛を広げ、人びとをサポートしていきたい」とも彼女は語っている。

BTFはまさに、女性、社会的抱摂、障害に焦点を当てている、とRiraは言う。更に、BTFでは、誰もがお互いの違いを認め合い、寛容になる社会的抱摂性をもち、また実践している。

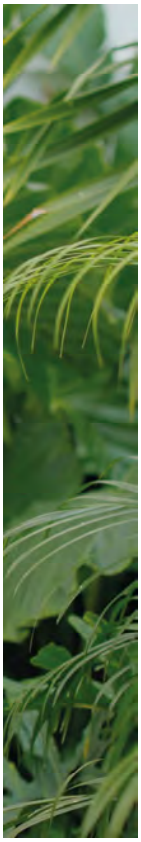
「BTFの活動は、社会的抱摂を理解し、実践する取り組みです。BTFに参加できたことを本当にありがたく思っております。それは、BTFを通じ、私の友人たちが障害者と接するにあたっての心遣いを身につけたことで、私はとても認められたような気持ちになることができました」と、Riraは話した。

自己啓発のほか、Riraは履歴書を人事にアピールする方法を学ぶ機会も得た。そうすることで、リラは就職面接に備えることができるようになった。

彼女は、今後プラン・インドネシアの活動が、BTF同様に、障害者を勇気づけ、抱摂的な社会における信頼を深めるよう望んでいる。

「主に仕事において、自信を高めるのにBTFがとても助けになりました」

-Rira



「私は、女性も男性と何ら変わらないことを誇りに思います。私たちに同じ能力を持ち、同じ機会が与えられています」

-Maya

女性であること、競争を恐れないこと

Maya (30歳)
BTF 第1期 参加者

BTFプログラムに1～10のスコアを付けるとしたら、このプログラムによって多くの知識を得ることができたので、最高得点の10点をあげます

- MAYA

就職活動は、30歳の女性Mayaをはじめ、誰にとっても簡単なことではない。Mayaはかつて就職活動で苦境に立たされた。

しかし、MayaはBTFに出会えた。プラン・インドネシアがつくるコミュニティでMayaは沢山の友人を作り、彼らとともに次のキャリアを踏み出すための糧を手に入れた。キャリアコーチングセッションでのさまざまな資料は、Mayaが目指す仕事へ準備するのに大きく役立った。

M彼女が携わる仕事はコミュニケーション分野である。そこでは、さまざまな背景を持つ人たちとのコミュニケーション能力が必要とされる。

「現在求職中の私は、新しいスキルを学び、多様な背景を持つ人々と出会いたいと心から思っています。また、自分とは異なる背景を持つ人に、もっと寄り添えるようになりたいと思っています」と、彼女は語る。

BTFへ参加する数か月の間、Mayaはユース・チャンピオンへの参加をとても大切にしていた。

BTFへ参加する数か月の間、Mayaはユース・チャンピオンへの参加をとても大切にしていた。

彼女が楽しみにしていた通り、この活動を通じて、多くの友人を作り、人脈づくりができた。

「多様な背景、年齢、学歴や教育を持つ人々に新しく出会いました。彼らと出会い、また彼らを知ることができたことを嬉しく思います」と、彼女は話す。

Mayaはブライティーをしている間に、ユースの持つ特徴を掴んだ。また、多くの人と出会ううちに、彼女は他人の心を理解することができるようになった。

そして、BTFによって、彼女は健全な職場環境とは何かがわかるようになってきている。Mayaは、勇気をもって自身の意見を言うこと、そしてジェンダー平等の概念をどのように適用するかを学んだ。

「ひとつ言えることは、女性は男性と平等であり、何ら違わない、だから私には自分の意見を言う勇気が湧いてきました。同じ機会が与えられてるのですから、女性がBTFに参加することは重要です。そして、新しいことに挑戦することを恐れないことです」と、彼女は話す。

彼女は、国民が女性のジェンダー平等のために戦ってきたことを誇りにしている。「私は、女性も男性と何ら変わらないことを誇りに思います。私たちは同じ能力をもち、同じ機会が与えられています」。

Mayaは、自身がプログラムから受けた恩恵を考えると、間違いなくこのプログラムを親しい友人たちに薦めたいと考えている。「BTFプログラムに1～10のスコアを付けるとしたら、最高得点の10点です」と、彼女は付け加えた。Mayaは、BTFは就職活動をするにあたって多くの知識を与えてくれる、総合的なプログラムだと言う。「このプログラムは、これから高等教育を受ける人や、特に自分のスキルを向上させる人にとって有益だと思います」とMayaは述べた。

ビジネス改善に貢献した コピーライティングと マーケティングのスキル

Ibrohim (25歳)
BTF 第4期 参加者

Ibrohimはナシクニン（インドネシア料理の一つで、ウコンとココナッツミルクで炊いたご飯）のビジネスの従業員であり、経営者でもある。Ibrohimは、売上における困難に直面し、ビジネスを何とか発展したいと思っている。彼は起業における課題と対峙し、ソフトスキルを向上させようとしている。ソフトスキルはビジネスを発展させるにあたり重要だと彼は考える。

「COVID-19パンデミックにより飲食業は急成長しているので、この厳しい競争の中で自分の能力を高めていかなければならない」とIbrohimは言う。

これが、IbrohimのBTFへの参加動機である。金属工学の学士号を持つIbrohimは、このコミュニティを通じて、マーケティング、ビジネスマネジメント、セールス、コピーライティングなど、多くの新しいスキルを学んだ。彼は、ソフトセルという商品の良さを間接的・情緒的に訴求するような販売法により、ビジネスを発展させることができたと述べている。

Ibrohimは、たった数回の研修で、顧客志向と顧客の関心を高める方法を理解した。そして、ここが、彼の前進の出発点となった。

彼がBTFに参加というもの、大きく変化があった。彼のナシクニンビジネスの売上は急速に拡大した。「BTFの研修に参加するまで、ナシクニンの売上は0%でした。この半年間で、7,000食分のナシクニン販売し、ジャカルタでケータリングの注文も受けました。また、1日に200食超の注文を受けたこともあります。」と彼は言う。

また、良いことに、ブライティーになった後、彼のビジネスはある大会で優勝し、Kumparan（インドネシアのオンラインメディア）から5,000万ルピアを授与された。

IbrohimはSandiagaUno（インドネシアの現閣僚、前ジャカルタ首都特別州副知事）を尊敬し、手本としている。彼によると、BTFが提供するような研修は、Googleで検索して得られた限られた知識を吸収するよりも、はるかに応用が利くものだという。

Ibrohimは、大学生や後輩にこのプログラムを紹介し、企業で働くこととは別の特別な経験をしてもらいたいと考えている。

文字通り、黄色いお米という意味；ターメリックなどのスパイスで黄色く炊き上げたご飯に、さまざまなおかずを添えて食べる。

「人生はオフィスの中だけにとどまるものではなく、他の能力や経験も学び・得るべきであると理解してほしい。例えば、オフィスワークが自分には向いていないと思ったとき、起業家になるための他の経験や能力を持ちうるのです」と、Ibrahimは言う。

BTFのような適切なコミュニティを見つけることなども含めて、インターネットを通じて豊富な機会と出会うことができると彼は考えている。また、COVID-19のパンデミック中、私たちの生活はテクノロジーによって100%変化した。

また、Ibrohimは、機会があれば、ジャカルタの中小企業の経営者を支援したいと語る。「魅力的かつ手頃な方法で商品を販売してきた経験を共有し、より真剣にビジネスを展開したい人たちを支援したい」と、言う。

さらに、Ibrohimは、経営者にあきらめないことで勇気づけたいという。そして、困難に立ち向かうことをやめず、あきらめさえしなければ、文句を言うのは問題ないという。

追い求めたパブリックスピーキング（人前で話をするスキル）を学ぶ機会

Mughniy (21歳)
BTF 第3期 参加者

21歳のMughniyと彼女の家族はCOVID-19パンデミックによって経済的な影響を受け、彼女は強くあるためにも支援を受けられるシステムを見つける必要があった。WhatsAppで流れた情報から、Mugniyはすぐにプラン・インドネシアのInstagramページを訪れた。当時、プランのInstagramのフォロワー数はまだ数千人程度だったため、彼女は疑問を抱いていた。その後、好奇心旺盛な彼女は、更に詳しく調べ、プラン・インドネシアはかなり大きなNGOであることを知った。

その後、MughniyはBTFを知り、就職のためにと思い、プログラムへ参加登録した。ボゴール出身の彼女は、このコミュニティに参加したことで、期待以上のものを手に入れることができた。

Mughniyは、より広いネットワーキングの機会を得て、仕事の世界で初めて実務に携わることができた。彼女は、自身の自信も高めたかった。「ユース・チャンピオンとして、ウェビナーで司会をする機会がありました。短期間で用意しなければならず、自信をもって行わなければなりませんでした」と、Mughniyは語る。

ユースであるMughniyは変化を好み、特に、パブリックスピーキングやデザインのスキルを磨くことを望んだ。例えば、ウェビナーを通じ、彼女はデザインに興味を持ち始め、デザイン分野でプロとして働く友人たちに会った。ゲームが好きな彼女に言わせると、ブライティーになることは、目に見えない恩恵を受けることだという。Mughniyは友人らにもその恩恵を享受してもらいたいと考えているが、オンライン上での活動なので、彼らはまだ興味をもっていない。

しかし、それでも彼女は、人つながるきっかけになればと、BTFの活動のリンクを友人や他の人と共有することをやめなかった。「ネット上の活動とはいえ、そのメリットを説明しました。しかも、彼らのほとんどが就職活動中なのです」と、彼女は言う。

学生として、社会人として、Mughniyは研修で新しい言葉を学んでいる。彼女は、これらが人前で話すときや将来の就職活動に役立つと考えている。

Mughniyは新しく出会った言葉を聞くだけでなく、その意味を理解しようとした。そうすることで、人前で話す際、新しく出会う言葉の意味を理解できるようになる。

また、女性としてMughniyは、ソフトスキル研修を通じて、他の女性にも影響を与えることができるようになったと言う。ソフトスキル研修では、あらゆる環境で実施されるべきジェンダー平等について議論される。彼女はまた、他の女性たちを次のように励ました、

「チャンスはやってくるものではなく、自ら追い求めるもの」

思慮分別をもち、生きることの価値

Satria (24歳)
BTF 第2期 参加者

COVID-19パンデミックで対面での出会いや活動が制限されたことをきっかけに、Satria Indra Permanaはソーシャルメディアを通じ、新しい仲間と出会い、新しい経験をするようになった。このように、Satriaのように多くの人がソーシャルメディア上で積極的に活動するようになった。そんな時、彼はプラン・インドネシア主催のソフトスキル・ジェンダー・フェミニズムに関するウェビナーに友人が参加しているの知った。

その友人の参加から情報を得た北ジャカルタ出身の彼は、好奇心旺盛で、より幅広い知識とネットワーキングのために、BTFプログラムに登録した。BTFのコミュニティに加わったSatriaは、新しく得るものによって、彼自身がプラスの影響受けているのに気付いた。友達を作るのを割と難しいと感じていた彼にとって、この経験はとても貴重なもので、今では彼の周囲には支え合える人たちがいる。

「他者を理解することについて学ぶ際に、その第一歩は自分を理解することだと学びました。また、自分のスキルも向上しました。それから、特に昨今はパンデミックの最中ですが、少数の友人と会い、話をする機会もありました」と、語る。

歴史教育学の学士号を持つ彼は、周囲の環境のサポートのおかげで、自身がより勤勉になったとを認めている。更に、知性を重んずる教師であるSatriaは、自身を向上させたいと考えている。「私は職業高校の教師です。生徒にもよく言っているよう、新しいことを学んで自身を向上させなければなりません」とSatriaは言う。

Satriaは、BTFに参加する以前、このプログラムにあまり期待していなかったことを明かした。

今では、彼はこのプログラムを良い学習サービスとして捉えている。彼が参加した研修の中には、ストーリーテリングや瞑想がある。「今まで考えもしなかったことが、今ではなんでもできるとわかったんです」と、彼は話す。

彼は特に障害者や女性の働く世界を変えたいと考えている。また、仕事における計画力 をつけたいと考えている。プログラムから受けた新しい情熱とともに、彼は、大学の友人たちで卒業したものの就職が決まらず、どうしたらいいか迷っている人たちに、このプログラムを紹介したかったという。更に、ジャカルタに住む友人の中には、BTFを知らない人もいるという。「知ってもらうことで、彼らにはより良い人生を歩んでもらいたい」。

彼は、Mohammad HattaやGusdurやRaditya Dikaを敬愛し、次の名言を人生の拠り所にしている。

「今日は悪い日でも、毎日がそうではない」これを思い出すたび、私はストレスを感じにくくなり、また平静でいられます」と、教えてくれた。

また、Satriaは、女性や障害者がもっと活躍できるよう、その権利のために戦い、前進し続けることを願っている。

BTFの支援により、仕事で、更に自信を持ち、率先して行動できるようになった

Anik (30歳)
BTF 第4期　参加者

身体障害者であるAnikは、BTFの雇用訓練は、疎外された人々にとって役に立つと思った。BTFは障害のある人も、ない人と分け隔てなく、同じように活動する場を提供していると感じた。

Anikが初めてプラン・インドネシアを知ったのは、2021年7月にCOVID-19に罹患したときだった。彼女は1ヶ月間以上もの長い間隔離された。

彼女は自分の部屋でやることがなく、退屈に感じていた。Ustaz Adi Hidayatを尊敬する彼女は、InstagramでBTFのストーリーを見つけたのだ。

彼女がブライティーとしてBTFに参加したのは、洞察力を得て、ネットワーキングをするためだった。現在もコミュニティで知り合った友人と連絡を取り合い、また近々会う予定である。

「プログラムに参加してから、人前で話すことに不安を感じることがなくなりました。同僚や上司、初対面の人とも話したり、コミュニケーションが取れるようになりました」と、彼女は話す。

Anikは、ブライティーになることで、期待通りのものが得られた、と言う。ソフトスキルの向上だけでなく、ウェビナーの話者たちが各分野における専門家であることも知った。

「まるで空のグラスが満たされるよう、私は話者から共有された新しい知識でいっぱいでした」と、彼女は言う。

彼女にとって最も興味深く、印象に残っている科目は財務管理である。この科目は、彼女がプライベートでの財政管理をするのに役立った。

「私は現在30歳で、自分の家庭を持ち、2歳の子供がいます。また、自分自身と家族、それぞれのニーズがあります。私は、BTFの教材から、日常生活でどのように取り入れ、応用していくか、という点で大きな影響を受けています」とAnikは述べている。

BTFプログラムでは、ブライティーズがキャリア、生活、家族などの悩みについて心理カウンセラーに相談できるよう心理社会的な支援を提供している。

「人間である以上、悩みは絶対にあります。その悩みを解決し、問題が起きたときにどう対応するか考えるための時間でした」とAnikは語る。

AnikはBTFの研修から良い刺激を受けている。将来もこのようなコミュニティが存在し続け、子どもにも知れわたるよう、彼女は望んでいる。

Anikは、このプログラムのおかげで、指示を待つのではなく、仕事上で率先して行動する人になることができ、またマインドセットを変えることができた。

「人前で話すことに不安を
感じなくなりました...」

-Anik

障害により日常生活や社会生活において受ける制限の中で、社会で競争できるようスキルを身につける

Danu (24歳)
バンドゥン Dnetwork

聴覚障害者であるDanuは、社会で競争するための自分磨きやスキルアップを怠らない。

Danuは事務処理能力や就労に必要なスキルを向上させたいと考え、BTFのコミュニティへ参加した。

彼は、バリ島の障害者コミュニティの友人の紹介で、このプログラムを知り、2022年2月にプログラムに参加した。

Danuは、BTFプログラムとそこで提供された研修教材によって、仕事の世界へと導かれたのだという。

「この研修に参加することで、自分の可能性や能力を向上させることができました。この研修は私の期待通りで、1～5で点数をつけるならば、仕事の世界での実用性という点を考慮し、4点をつけます」と、Danuは言う。

ボランティアが趣味であるDanuは、「障害のある友人を誘って、このプログラムに参加したい」と話す。

Danuは、ブライティーになり、多くの恩恵を享受した。

「私にとって、パーソナルブランディングとスキルのうち、特に就労者が仕事市場で競争するためのものは、メリットです」と、Surya Sahetapyを尊敬するDanuは答えた。

更に、もうひとつ、彼にとってプラスなのは、コミュニティのサポート体制であり、特に彼が障害により日常生活や社会生活において受ける制限を解消させることで 、多くの可能性を引き出すことができた。

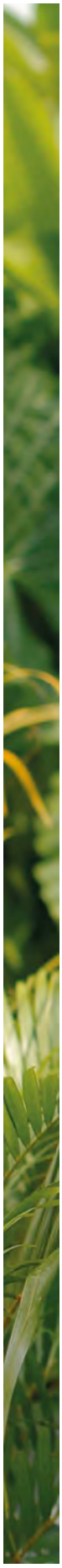
BTFは、例えば、面接の準備、日々の時間管理、仕事における自分自身のキャパシティの管理など、求人への応募から企業への就職を実現するといった、実用的な教材が用意されているので、仕事上役立つとDanuは考える。

彼は、障害者の一人として、この研修が有用で、また他の障害を持つ人びとに前向きな影響を与えると考える。

「多くの障害を持つ友人の多くが、求職票を準備することで、社会で競争できるようになった」という。

Danuはこの研修に参加後、友人たちが、働きやすく、また長く働き続けられるな職場環境を支援する仕事をしている、という変化を目の当たりにした。

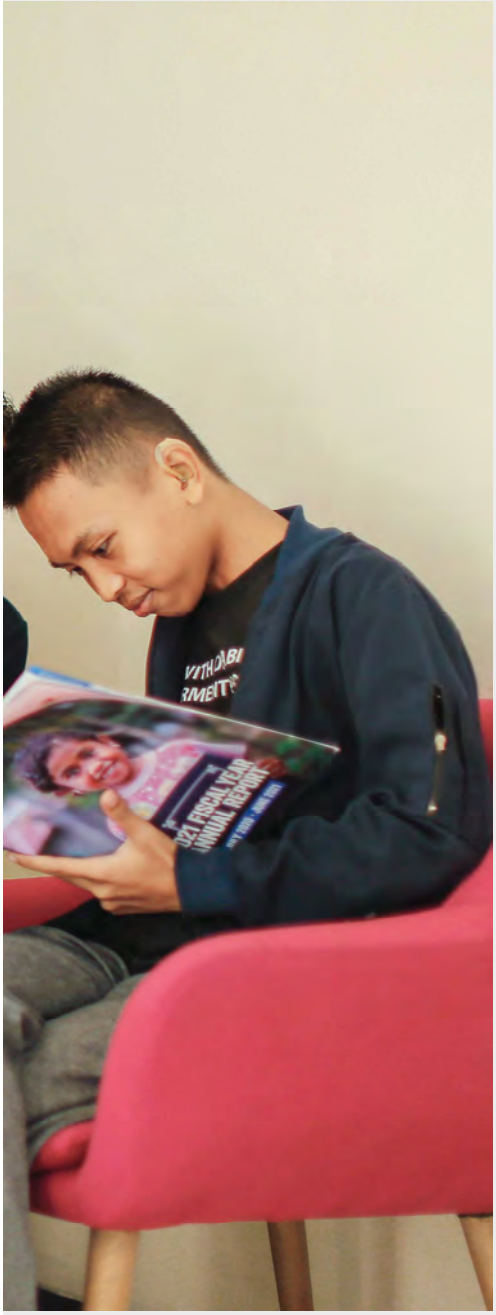
Danuは、社会で競争できる障害者がたくさん輩出されることを願っている。



PLE WITH DISABILITIES
WERMENT PROGRAM

PEOPLE WITH DISABILITIE
EMPOWERMENT PROGRA
B.R.A.V.E
SaVa
GROUP

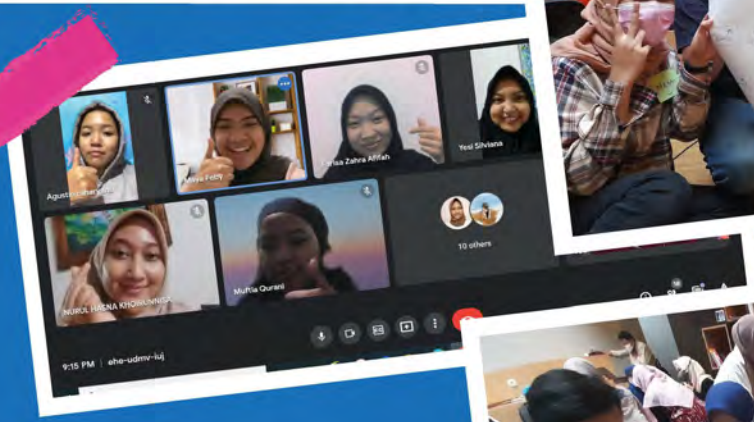
ブライティーズ、プラン・インドネシアオフィスにて



YAYASAN PLAN
INTERNATIONAL
INDONESIA
PLAN
WHERE
WE WORK
SaVa
GROUP

YAYASAN PLAN
INTERNATIONAL
INDONESIA
PLAN

ACTIVITIES OF BRIDGES TO THE FUTURE



MECHANICAL ENGINEERING TRAINING WITH PPKPI JAKARTA

DESIGN THINKING WORKSHOP OF BTF'S YOUTH CHAMPION

TWO-WHEELS VEHICLE REPAIR TRAINING WITH PPKD EAST JAKARTA

JAKPRENEUR TRAINING

OPENING CEREMONY OF PASTRY TRAINING BY HEAD OF EMPLOYMENT, TRANSMIGRATION, AND ENERGY DEPARTMENT OF WEST JAKARTA

TEAM OF BRIDGES TO THE FUTURE PROGRAM

YAYASAN PLAN INTERNATIONAL INDONESIA

Komplek Buncit Utama No.Kav 16,
JL. Warung Jati Barat, Kel. Jati Padang,
Kec. Ps. Minggu, Jakarta Selatan 12540, Indonesia

kitakerja.id kitakerja.id www.kitakerja.id

© 2022